

教区通信

ふくおか

2018(平成30)年1月1日発行

Vol.123

発行

「御同朋の社会をめざす運動」
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

-From tying bonds to great encounters-



▲ 恵信尼750回忌法要(「こぶしの花」合唱)

P2 新年のご挨拶 P2 第2回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

- P3 実践運動研修会「自死自殺に学ぶ」
- P3 「ハンセン病問題に学ぶ」について
- P4 連研のための研究会
- P4 勤式研修会「葬送儀礼について」
- P5 第三回念仏奉仕団に参加して
- P6 恵信尼さま七五〇回忌法要によせて

- P7 恵信尼さま歌詞選定について
- P8 御笠組 実践運動の取り組み
- P8 粕屋組 実践運動の取り組み
- P9 夜須組 実践運動の取り組み
- P9 法話「ノンアルビールと特保のお茶」
- P10 行事予定

新年のご挨拶

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 菊池 慈峰



「蓮如上人仰せられ候ふ。道徳はいくつになるぞ、道徳念仏申さるべし。」これは、『蓮如上人御一代記聞書』

第一条の一節です。この条の全体は、念仏の他力・自力を記してあるところですが、個人的には「道徳はいくつになるぞ、道徳念仏申さるべし」に注視したいと味わっています。それは勧修寺村の道徳さんが、蓮如上人へ正月のご挨拶に行き、蓮如上人よりいただいた言葉です。「いくつになるぞ」と「念仏申さるべし」の間に、諸行無常の理が感じ取られるからです。私が生かされ生きる世界は、一瞬たりとも同じではないということです。

昨年七月五日から六日にかけて「平成二十九年七月九州北部豪雨」が発生し、福岡県朝倉市・東峰村、さらには大分県日田市を中心に大きな被害を受けました。福岡においては、殊にご門徒の被害が甚大で、亡くなられた方二十七名、安否不明の方二名(昨年未現在)、さらに家屋の全壊・半壊・床下浸水など一五一五件に上りました。あらためて亡くなられた方のご遺族、被災された皆さまにお悔やみとお見舞いを申し上げます。

昨年のご挨拶には、熊本地震のことを記し、本年は、「平成二十九年七月

九州北部豪雨」のことを書きなければならぬことは、辛く悲しいことですが、それが無常の世界を生きているということでしょう。

第二十五代専如門主は、伝灯奉告法要ご親教「念仏者の生き方」の中で、「私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いではできません。しかし、それでも仏法を抛りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていたただく人間になるのです。」とお示しいただきました。まさに無常の世界に生き、我執我欲に汲々としながらも、仏さまのお心になう生き方をしようとすると、この私を願わずにはおれない仏さまといただけます。

昨年・今年と災害のことを書きなければならぬ中、仏法を抛りどころとして、災害支援など社会の課題に向き合い、宗門の目的でもあります「自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」ため、ともに歩みを進めたいと思います。

本年もさまざまにご教導をお願いし、年頭にあたつてのご挨拶といたします。

合 掌

第二回「御同朋の社会をめざす運動」

中央委員会報告

「御同朋の社会をめざす運動」教区中央委員 須藤 哲昭

昨年、十一月三十日伝道本部に於いて各教区中央委員、総局、宗務所員参集のもと二〇一七(平成二十九)年度第二回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会が開催されました。まず、宗門総合振興計画に基づいた「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)・重点プロジェクト推進状況について統合企画事務局より報告されました。各教区では災害支援とともに各現場が定めた実践目標の達成に向け取り組まれている内容については本願寺ホームページにて掲載されているので閲覧し共有して欲しいと述べられました。関連して協議事項へ移り、来期に改訂される「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクト」改定について提示され説明されました。

改定されることは、七月中央委員会、八月教区巡回にて説明がなされてきましたが、宗門の重点プロジェクト「実践目標」を「貧困問題の克服に取り組む子どもたちの貧困を中心に」と初めて示されました。これに対し各教区委員より「このテーマに決まったプロセスは?」「世間(自治体や各団体)で既に取り組まれているが、教団全体で取り組むテーマなのか?」「貧困は子どもの生活で精一杯なのか?」「貧困は子どもたちの生活で精一杯なのか?」「貧困と非貧困という差別を生むのでは?」「同朋運動の姿勢が問われる」等様々な意見が述べられた。総局の返答は「戦後七十年を機縁として具体的な平和貢献策として、公聴会などで経済格差・貧困の克服を提案してきた。国際的には貧困は紛争をひきおこす大きな要素とな

っている。誰もが参画出来る取り組みとして実践目標とした。来期の二年間は是非このことをテーマに取り組んでいただきたい。」でした。次に意見具申について、福岡教区より提出した一つ「差別問題に関する僧侶意識調査の実施を求めます。」について協議されました。他教区より賛同頂きましたが、総局は「福岡教区内の特定地域と国内他地域の現状が同じであるとは言えない。また調査するにしても法規に基づき取り組んでいきたい。関係宗務部門にて返答する。」と述べられた。また、もう一つの「研修講師の派遣状況について明確な情報提示を求めます。」は、前日行われた常任委員会にて棄却され委員会中取り上げられませんでした。これについて委員会終了後、関係部長に常任委員会での棄却に至ったプロセス、理由を提示するよう求めましたが、納得のいく返答はありませんでした。意見具申について協議後「子どもの貧困について」特別非常利法人山科醍醐子どもひろば理事長竹井琢哉さんより講義を受けました。やはり現場に向きあう方の言葉には重みがあり、「知る」「学ぶ」「推進する」「支援する」ことを中心に是非取り組んで欲しいとのことでした。

ただ宗門全体の実践目標とするとき、貧困と平和の現実には「丁寧」に「深く」取り組まなければならない、その中に自ら問われる同朋運動の視点や「戦後問題検討委員会答申」に示される教団の戦争責任が私の問題であることを忘れてはならないと実感しました。

称 名

実践運動福岡教区委員会 「自死自殺に学ぶ」

実践運動福岡教区委員会 寺院機能推進部長 渡邊 慈海(西嘉穂組 西蓮寺)

二〇一七(平成二十九)年十二月五日、福岡教堂にて「自死自殺に学ぶ」というテーマで研修会を開催しました。

ご講師は安芸教区の石田博文さん。東京教区作成の『自死に向き合う』いま、私にできること』の小冊子をテキストに、※自死念慮者や自死者の遺族に対する誤解や当事者の気持ち・気をつけるべきこと、また、自身も参画されておられる「自死に向き合う広島僧侶の会」の活動を通してのお話をいただきました。

石田さんご自身は在家の出身で、肉親を自死で亡くされた自死遺族でもありません。当時からけられた様々な声や仏教の話も、「今だからこそ有り難いものだと分かるが、最初は法話や仏教の話は一切受け入れられなかった」と振り返り、しばらくは肉親の自死に触れようとしなかった時期もあったが、『仏教は自死を肯定しないが、否定もしていない』という論文に出会って、私自身肩の荷が下りた、と思いを語られました。

「僧侶はすぐに語る(説く)側になりやすいが、身近な方の自死という混乱の中にある遺族にはまず届かない。また、状況や立場・人間関係によって思いも様々元気に振る舞いながら、言い出せないよ

うな感情を内側に抱えていることもある。

遺族の方々は『私の気持ちをわかってくれない、という雰囲気にしてしまうことが一番辛い』という思いがある。



「追悼法要は超宗派だからこそ、宗派の違いで参加できないということがなく、誰もががらうい思いを打ち明け共有していくことができる。私たちに『救う』ことはできないが、悲しみや苦しみの中にある方と時間をともにし、『ともに歩む』ことはできる。そのお手伝いができれば、広がっていけば、自死への偏見も減っていくのではないかと講演をいただきました。

御同朋として、自死を悪と裁くのではなく、苦しみを抱える人に向き合い共に歩んでいくことの大切さをお伝えいただきました。

※自死を考えている人

「ハンセン病問題に学ぶ」について

実践運動福岡教区委員会 同朋運動部部長 黒木 観之(三門北組 浄光寺)

十二月十八日、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)教区委員会研修会を「ハンセン病問題に学ぶ」をテーマに開催いたしました。ご講師に「ヒューマンライツ ふくおか」代表理事の古長美知子さんをお迎えしました。

研修にあたり、須藤委員から、二〇一七(平成二十九)年一月付の教区意見具申「宗門の主導で、全国のハンセン病療養所における「真宗会館」の保存を！」を通して、自身がどのように捉えていけばよいのか、偏見や差別性を私の課題として与えられていると御意見をいただきました。

その後、星塚敬愛園に行かれた時のDVD上映では、入所者の悲願の叫び「閉ざされた社会の中で生きることに自ら光を求めていかれ、心をつにして取り組まれた」ことを知り、隔離という闇に突き落とされた失望に強く胸を打たれました。

講演では、ご講師が入所者の方々と出会い、「自分が何かしなくては」と受け止め、ヒューマンライツふくおかを設立されたとのことでした。そこで障がいのある方の絵画を通して生きる希望に目覚め、自主的に行動される姿に驚かれたとのことでした。

「当時の誤った政府政策により、ハンセン病の患者は、名前を変えられ、死んだ後も療養所から出ることも許されなかった。正に収容所と同じ扱いをされ闇に閉ざされたといわれる。また、故郷の家に泊まることすらできず家庭から突き放される辛さや、身内の結婚も破談になったり、離婚されることもあった」とお話しされました。

「いくつもの人のこころ経由して うつくしからぬ噂 とどきぬ」人を見下したり、蔑んだり、非常に醜さを感じるとのことでした。多くの方が「偏見から解放をと正しい理解を」と懇願され伝えようとされています。「私に出来ることは何でしょう」と今、問われています。

今しかない。入所者の高齢化もすすみ、伝えたいことすら聞けなくなりまます。一月に現地学習会で星塚敬愛園に伺いますので、より学びを深めたいと思います。



連研のための研究会

実践運動福岡教区委員会 門信徒教化部会 齊田 彰迫(遠賀組 蓮光寺)

十月六日(金)に連研のための研究会を講師に脇谷暁融さん(連研中央講師・北海道教区 十勝組 妙覚寺)をお迎えして開催いたしました。

日頃より各組の連研に取り組まれている僧侶、門徒推進員を中心に五十七名のご参加をいただきました。

はじめに、門徒推進員の活動と取り組みの発表を那珂組門徒推進員の原京子さんよりご報告いただき、他組の活動状況としての在り方などをあらためて見つめ直す機会となりました。

その後、今回のテーマである『私の運動の根を確認しよう』を中心に、講師より、御同朋の社会をめざす運動(実践運動)についての方向性、主旨の再確認の必要性を挙げられ、御同朋の社会をめざすとは? 「実践運動」として関わっていく私たちの活動の本質について、問題提起がなされました。



そして、自らの運動を見つめ直す上で連研ノートEの問7「自分だけが幸せでよいのでしょうか」をテーマに話し合い法座を行いました。

全体会では多岐にわたる悩みや課題が報告され、特にボランティアに関わる上での立ち位置の難しさなどが報告されました。

まとめにおいて、講師より、親鸞聖人の信心の味わいを通して、〇×で見えてしまう私たちの価値基準を問うていくこと、心の問題としてではなく、わが身の問題の解決としていかに「問い」と向き合うかをお話いただきました。

また、連研を通してのさまざまな問いに対して、「答え」を導くということにとらわれ過ぎず、問いに「応え」ていく過程の大切さ、そこから新たな「問い」であり、「答え」であり、導かれていく「問い」の拡がりや深まりの重要性、連研を取り組む上での方向性をあらためて考えさせられる研究会となりました。



勤式研修会「葬送儀礼について」

東筑組 妙泉寺 住職 鳥井 真史

二〇一七(平成二十九)年十二月十二日に福岡教区勤式指導員である藤崎功良さんをご講師に迎え、葬送儀礼についての福岡教区勤式研修会が行なわれました。今の時代、インターネットで葬儀の事を調べてみると「家族葬〇〇円」「火葬式〇〇円」など様々なプランがでてきます。

また、通夜・葬儀を行わずに、亡くなられた方のお宅から直接火葬場にご遺体を運んで火葬するだけの「直葬」というものもあります。

つい先日ニュースを見てとても驚いたのですが、葬儀の参列をドライブスルーで行うという形もできたそうです。

この現代社会の中において、多くの方々の葬儀についての考え方が大きく変わっていつているように思えます。



しかし、これは私たち僧侶が葬儀の本来的意義をしつかり伝える事ができず、葬儀を形だけの儀式として行う面もあったからではないかと思えます。私たち僧侶は遺された遺族に代わり、お取り次ぎをする立場でございます。その私たちの後姿をみて、遺族の方々は何を思うのか。

私たちは大切な方の最期に立ち会わせてもらっています。

その中で、葬儀・法事などの儀式を単なる儀式で終わらすのではなく、作法・声明・立振舞・ご法話など、ひとつひとつ真摯に勤めさせていた、だくという心構えを常に持ち、その意義を伝えていく。

葬送儀礼を通して仏徳讃嘆する姿勢から、いただいたご縁を遺族の方々へ寄り添いながら大切にしていかなければならないと強く感じる時間となりました。



第三回念仏奉仕団に参加して

福岡組 徳栄寺 野村 郁子

秋たけなわの十一月八日〜十日、福岡教区の十六人は蓮如上人のゆかりの越前路を旅し、ご本山念仏奉仕団に参加した。雨上がりの小松空港から、鴨が群れる北潟湖畔の吉崎山にある吉崎御坊に着く。ここは本願寺中興の祖と言われる蓮如上人の北陸における布教の拠点地である。念力門と名付けられた山門をくぐる。この門は、昭和二十四年本願寺北の総門を解体し、荷車に乗せ一〇一人で二五〇キロを、九日間で念仏を唱えながら運んだと言われる感動の山門である。丘の上には天に向かって立たれた高村光雲作蓮如上人銅像の力強いお姿を拝することができ。

続いて天然記念物及び名勝に指定されている東尋坊を巡る。柱状節理の岩肌に日本海の荒波が砕け散る。

午後は永平寺町の本覚寺を訪れる。桐と鳳凰の寺紋の光る山門や本堂は大きく、寺宝の釈迦涅槃図や聖徳太子南無仏像や蓮如上人筆六字・九字名号を拝観する。

二日目は、琵琶湖に浮かぶ沖島の西福寺へ。長命寺港から二十分の船旅で、出帆して暫くしてぼっかりした涅槃像の島影が近くなる。心の中で南無阿弥陀仏である。この島は、蓮如上人が、吉崎御坊から堅田に向かわれる途中遭難し、立ち寄られた所である。面積一、五キロmの湖水に浮かぶ島には、人口わずか二五五



人で学校まであるというのは、日本唯一のようである。お寺には、ムシロの上で上人が書かれた虎斑の名号や御絵伝がある。

午後からご本山念仏奉仕団に参加した。安穩殿で開会式が行われ、二十九年度十七回目の二三四人の八団体参加である。私たちは、割烹着を着て黄色の念仏奉仕団の襷をつける。他の団体の方と交流はかりながら、御影堂の畳、廊下、柱、障子の棧を拭く。この後は、名庭の百華園で団体ごとにご門主様と記念撮影である。名木の紅葉を愛でながら、撮影順番

を待つのもまた楽しい。記念撮影後はご門主様の短いご法話で「諸行無常について」を聴聞する。

三日目は、六時からのご晨朝で、阿弥陀堂から御影堂に移動し、ご門主様のお出ましで多くの僧侶が前列に座られ満堂である。正信偈のお勤めと御堂法話である。御影堂を出ると太陽の日差しがまぶしく、言葉に言い尽くせない程の厳かな気持ちになる。

二回目の奉仕作業は、改装中の飛雲閣前の滴翠園の落葉掃きで、竹箒で黄葉のケヤキや団栗を集め、一〇〇袋があつという間に一杯になる。木々の間には白い割烹着姿が花のようである。暫く休んだ後、国宝の間で、抹茶と銘菓松風をいただく。その後は数々の国宝の間の解

説を受けながら拝観する。廊下の高い壁には、ススキの絵があり、穂が西に吹き流れ、それは西方浄土に向いているとのことなど。

再び安穩殿で閉会式が行われ、東海教区婦人会の五十回参加や個人では、二十五回や二十回と参加多数者に感謝状が渡される。ご挨拶で「これからも一人、二人とお誘いして参加ください」と結ばれた。

かねてより念仏奉仕団に参加したいと願っていましたので、ようやくその念願が叶えられ多くの和やかな方々に恵まれて有意義な三日間を過ごすことができました。

入場無料

私の今が輝き始める。

イマドキの関係性フォーラム

恋愛 × 仏教

つながり

～イマドキの関係性～

Special Guest

積 徹宗 × 吉沢 明歩 × 武田 正文

(講師・相愛大学教授) (パネリスト・専任カウンセラー) (講師・スクールカウンセラー)

2018 2月4日 日 14:00開式 (13:30受付開始)

本願寺福岡教堂

福岡県福岡市中央区基門3-2 電話 092-771-9081

主催 浄土真宗本願寺派福岡教区子ども・若者ご縁づくり推進委員会

▲ 子ども・若者ご縁づくり公開シンポジウムぜひ、ご参加ください！

恵信尼さま七五〇回忌法要によせて

嘉麻組 正恩寺 坊守 井上日出子

平成二十八年四月の福岡教区寺族婦人会総会で、松尾博子会長（福岡組長徳寺坊守）から、「恵信尼さまの七五〇回忌法要をお勤めしたい」とご提案がありました。



▲歌詞受賞者の表彰

八月の仏教婦人三者合同会議で、このご法要の厳修が決定されて、直ちにご法要にむけて活発な意見が出されました。今度の寺族婦人会の幹事は、私を含めて、初めてこのお勤めを経験する方がほとんどでしたが、その熱心で真摯な姿勢に驚き、敬意をもちました。十月には、西口 順子さん（相愛大学名誉教授）の「恵信尼消息」（文章）のご講話を拝聴しました。恵信尼さまのご生涯

を詳しく深く教えていただき、感銘いたしました。十一月の第一回法要実行委員会は、ご法要の円（まど）かな成就に向かつて、熱のこもった会議になりました。

私自身、今度の幹事のつとめを、有難いご縁が恵まれたと感謝するようになっていました。

そして、平成二十九年十月十七日・十八日に、恵信尼さまへの報恩の念（おも）いが終結されたご法要が厳修されました。ご法要では、菊池教務所長の表白、音楽法要に続いて、草野 顕之さん（大谷大学前学長）のご講話があり、最後に合唱で『こぶしの花』が披露されました。すばらしいご法要でした。この尊いご縁に出会わせていただいたよろこびを、わたしは忘れることはないと思います。

親鸞聖人は、人生の真実に生きる道は、「お名号のみ教えをお聞かせいただき、



▲恵信尼さまのお荘厳

肉体の命終と同時に浄土の仏さまにしていたくことである」と教えられました。恵信尼さまの八十七年間のご生涯は、苦悩も深いものであったと思います。

しかし、親鸞聖人のみ教えをこよなく敬われた恵信尼さまは、お名号のはたらくまで、苦悩をよろこびに変えられて、お浄土への人生を生きられました。

私も、恵信尼さまのみ跡をお慕いました。と思います。



▲恵信尼法要実行委員会の皆さま

恵信尼さま
歌詞選定に
ついて

福岡教区恵信尼さま
七百五十回忌法要実行
委員会からの提案で、
法要にあわせて恵信尼
さまの歌(仏教讃歌)
を作成することとなり、
教区内の関係者の皆様
に歌詞を募集しました。
七名より八編の歌詞
が寄せられ選定委員会
で最優秀作品に「こぶ
しの花」柴田友子さん
(早良組長徳寺坊守)、
優秀作品に「辛夷の花」
鳥飼和子さん(早良組
明光寺門徒)・「恵信
尼様」大塚朋子さん
(嘉麻組教元寺門徒)
が選ばれました。最優
秀作品には山崎澗朗さ
んに補作頂き、藤林由
里さんに曲を付けてい
ただきました。
完成した「こぶしの
花」は福岡教区仏教讃
歌の会(代表 大分哲
照)の皆様にご協力い
ただき福岡教区恵信尼
さま七百五十回忌法要
で披露されました。

選定委員会委員

山崎 澗朗	兵庫教区 出石組 正福寺住職(選定委員会代表)
藤林 由里	作・編曲家 ピアニスト
福本 康之	総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室長
菊池 慈峰	福岡教区教務所長(法要実行委員長)
松尾 博子	福岡教区 寺族婦人会連盟会長(法要副実行委員長)
伊藤 絹子	福岡教区 仏教婦人会連盟委員長(法要副実行委員長)
中村富美子	福岡教区 仏教婦人会連盟若婦人部部长(法要副実行委員長)

「こぶしの花」

詞：柴田 友子

- 春を呼ぶ ほほえみて
白い花びら さりげなく
わたしをみつめ わたしをみつめ こぶし花
- 香りほのか 美しく
白い花びら 清らかに
生きていこうと いきていこうと こぶし花
- 大地に根っこ めぐらせて
白い花びら ふんわりと
心やさしく 心やさしく こぶし花
白い花びら ふんわりと
心やさしく 心やさしく こぶし花

「辛夷の花」

詞：鳥飼 和子

- 目を閉じて静かに偲ぶ恵信尼さま
しんらんさまを支えつゝ
見えぬご苦労積み重ね 辛夷の花を愛しつゝ
生き抜き賜うた白い道
- 大空を仰げばやさしいお姿は
眩しき光のごとなり
夫への深い信頼に 辛夷六弁 六字と重ね
生き抜き賜うた白い道
- しんらんさまの京都の地より
遙か隔てた越後の国よ
辛き心をほとけにゆだね ふるさとの辛夷迎えて
生き抜き賜うた白い道

「恵信尼様」

詞：大塚 朋子

- 人の世の 流れのなかに 世を照らす
越後の空に 輝く命 白きこぶしの花に似て
きよきその名は 恵信尼様
- やさしい思い 届くその先 えにし人
親鸞様へ 仕えし慈悲よ 白いこぶしも知っている
優しいその名は 恵信尼様
- 世を想い ひとを思いし 深き慈悲
強き心は 世を照らし 匂うこぶしとともにあり
美しいその名は 恵信尼様

山崎澗朗(やまざき じゅうろう)

兵庫県出身。詩人。兵庫教区出石組正福寺住職。
龍谷大学文学部国文科卒業。在学中、同大学男声合唱団
に在籍したことをきっかけに、仏教讃歌の作詞を始める。
卒業後は京都女子学園に勤務し、仏教讃歌や合唱作品の
作詞を多数手掛ける。また、仏教音楽研究所(現・浄土
真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室)評議員
を務め、作詞公募作品の審査や補作を担当。
著書に、『合唱詩集 雪と夕日と観音と』(探究社)。
現在、浄土真宗本願寺派主催「全国児童生徒作品展」に
おいて「作文・詩」部門の審査員を務める。日本音楽著
作権協会会員、日本詩人連盟会員。

藤林由里(ふじばやし ゆり)

京都市出身。作・編曲家、ピアニスト。
京都市立堀川高校音楽科ピアノ専攻、愛知県立芸術大学音楽
学部作曲専攻卒業。全国で作・編曲作品を発表する傍ら、室
内楽、合唱曲、リサイタルの伴奏等の演奏会に出演。京都国
体、世界デザイン博覧会、建都1200年記念式典御前演奏会、
第26回国民文化祭・京都2011の音楽を担当する。自らの作
品によるCD『アニバーサリー』『10カラット』をリリース。
2012年、京都市芸術文化協会賞を受賞。日本作曲家協議会
会員、日本女性作曲家連盟会員。同志社女子大学講師。
宗門では、仏教讃歌の編曲を数多く手がける。また、親鸞聖
人750回大遠忌法要(宗祖讃仰作法第3種)、第25代専如門
主伝灯奉告法要(奉讃伝灯作法)、本願寺音御堂(旧・御堂演
奏会)、御正忌報恩講奉讃演奏会、築地本願寺ランチタイムコ
ンサートにおいて伴奏をつとめるなど、各種法要行事に参画。

御笠組 実践運動の取り組み

御笠組では実践目標として「災害支援
・東日本大震災をはじめとする被災者への支援」、「葬送儀礼・葬送儀礼を通して同朋教団の再生を考える」という二つの目標を挙げています。

「災害支援」では先の東日本大震災で募金活動を、熊本地震では募金活動や支援物資の運搬、現地でのボランティア活動を行いました。また昨年七月五日に発生した九州北部豪雨では、被災地に近いこともあり、組内の青少年育成部を中心に直接支援物資を運搬しました。また仏教婦人会・若婦人会で毎年行っているバスハイクでは、熊本の被災されたお寺と熊本別院にお参りして、震災の時のお話を聞かせていただきました。

「葬送儀礼」では葬儀と迷信という問題を取りあげました。現代にも残っている根拠の無い迷信・俗信に従って行動することが差別へとつながっていく、例えば「丙午(ひのえうま)」の迷信ではたくさんの命が奪われました。命を奪うことは最大の差別であることや、また葬儀の時に風習・慣習が残っているということとを研修会で取り扱いました。その迷信・俗信の実態調査の一環として御笠組近隣の火葬場の火葬件数を調査しました。

「六曜」の「友引」にあたる日にどれだけ火葬が行われているかを数年分のデータを調べその変遷をみたところ、



「葬儀(火葬)」をするものではない」とされている「友引」の日の火葬数は増加傾向にあることがわかりました。この調査で迷信・俗信の薄れゆく一面があるものの、未だに根強く残っている現状も見えてきました。一方で迷信・俗信が差別をつくり命を奪っているということを実感しにくいという御門徒の意見もあり、まだまだ継続して研修や実態の把握に取り組んでいく必要があります。

さらに実践目標としての設定はしていませんが、「人権・平和・非戦」をテーマに僧侶研修会を毎年取り組んでいます。ここ数年は真宗教団が過去に行った戦争協力の歴史を主題として学んでいます。

粕屋組 実践運動の取り組み

粕屋組では、実践目標「御同朋の社会実現への取り組み・葬送儀礼」、そして災害支援活動への取り組みを行っていきます。

粕屋組実践運動推進委員会は、六部門(同朋運動・寺院振興・連続研修・婦人・壮年・青少年部)、五教化団体(総代会・門徒推進員連絡協議会・仏壮・仏婦・若婦人)と寺族坊守・若坊守会が連携して取り組んでいます。

各部門・会が上手く連携できるよう組法中会での報告は基より、常任委員会を開き各部長・教化団体会長から活動状況・問題点報告を受け相互話し合う場を年度二回設けています。

「御同朋の社会実現への取り組み」という組実践目標は第一期実践運動期間では基幹運動と比較して取り組みを減らしてしまつたという反省と、僧侶、特に若手僧侶の学びの場としての重要性、各教化団体の幹部・役員会員交代ある中で問題意識を先ず持つて頂きたいということから第二期が始まっています。

「葬送儀礼」については葬儀社から役

員さんを講師に招き他宗派・他宗教・様々な形態の葬送の現状を聞き、僧侶側への要望を聞かせてもらい意見交換する場を今年度設けました。そして組僧侶を講師に組実践運動推進協議会のテーマとして粕屋組の現状と課題を提起、話し合い法座から上がってきた意見・要望等を僧侶門徒共々に共有し、次年度への取り組みの素となるようにしています。

近隣組の取り組みを知るため、他組へ講師出講を依頼、各組実践運動の内容を聞き資料等を頂き質問する僧侶研修会を行っています。

近年、粕屋組の住職が世代交代の時期となり、各担当する部門の兼任が増え多忙となつてきたことを補い、率先して企画準備段階からご協力を頂く門徒推進員が増えてきていることはありがたいことです。組内報恩講一覧書を作つて頂き御聴聞のご縁結びにもご尽力頂いています。



夜須組 実践運動の取り組み

夜須組には、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進する委員会として、重点プロジェクト推進委員会、同朋・教学部、情報部、連研部、門信徒会部及び青少年育成部の六部会があり、門徒代表者、教化団体(仏婦、若婦、仏壮、寺婦)並びに門徒推進委員連絡協議会とともに、活動に取り組んでいます。

実は、これらの部会及び活動は、「基幹運動」あるいは「基幹運動」あるいは、それ以前から取り組んできたことを継続しているものがほとんどです。二〇一二年に運動名称が「基幹運動」から「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)に改まったことにより新たに取り組んだ部会及び活動は、重点プロジェクト推進委員会の設置と実践目標を定めたくらいでしょうか。



いくつか例をあげますと、まず「僧侶研修」ですが、僧研は四十年ほど前に中ブロックの合同研修として始めたことで、「基幹運動」が始まったあたりから独自の研修会となり、差別問題に積極的に

取り組んでおりました。また、今期三十九期を迎えた連研は、元々門信徒と一緒にみ教を学ぶということからスタートした組の勉強会でした。その後、宗門で連続研修が開始されましたので、これに合流して二十年になります。さらに、お念仏のみ教えに一人でも多くの方にあっていただきたという願いのもと二〇〇二年以来、二年に一度開催している『浄土真宗聞法の集い』があります。

いづれも、夜須組の先達が御同朋の社会をめざして門信徒と始めた活動であり、今日まで継続しているものばかりです。

組の実践目標は「葬送儀礼」ですが、僧侶、寺婦、総代、教化団体の会長並びに門徒推進員による問題提起、班別討議そして全体討議という推進協議会が、実践運動になって新たに取り組んでいる唯一の活動といえるかもしれません。

二〇一七年度は、組内のご門徒へのアンケートを実施しています。家族、地域及びお寺とのかわり方と「葬送儀礼」に対する意識調査です。集計結果は、推進協議会で公表することにしています。



一言法話

近くのお同行ではなく、どなたかに聞いた話ですが、こんな話を伺いました。連休を利用して帰省された男性のお話です。男性が実家に帰るとたまたま妹さんも帰省されていたそうです。

そこでお母様が仰ったそうです。「あなた達今からお墓参りに行って、お父さんにご挨拶してきなさい」お母様はご用事で一緒に行けないとこのことで、用意されていたお花などを持って、妹さんと二人でお墓参りに出掛けられたそうです。

「ノンアルコールと特保のお茶」

東筑組 顕照寺 藤崎 証

きながら「お袋らしいなあ」とほほ笑ましく思われたそうです。ところがこも思われたそうです。「父は死してなお母からこうまで思われているのだな」なんとも仕合わせな方ですね。

このお話にはもうひとつ仕合わせがあると思います。それはお兄さんの方の心持ちです。持たされたお品物のなかに、見えないはずのお母様の思い・願いを聞き開いてゆけるこの方の豊かな心持ちも仕合わせだと思えますね。

如来様はわたしどもにたつたひとつお品物をご用意くださいました。それは南无阿弥陀仏です。南无阿弥陀仏は汝にかけられた願いを聞き開けよと届いてくださいました。まかせやすくうと届いてくださいました。

かつて何度も行ったことのあるお墓だそうですが、改めて見ると「立派にしとるな」と思われたそうです。きつと普段からお母様がお掃除なさっていたのでしょう。ロウソクを灯し、お線香をお供えます。するとそのほかに出てきたお供えの品を見ながら妹さんがグスクス笑いだされたそうです。袋から出てきたのはノンアルコールのビールと特保のお茶。「なんだか健康志向やけど、お父さん亡くなつとるから意味ないのね」と笑われたそうです。それを聞

あらたまの年の初めを祝うとも南无阿弥陀仏のころわするな年始の挨拶に伺った折、あるご院家様が教えてくださった歌です。ごなさいましたが、年が改まる度にこの歌を思い出し、彼の方々にお会いします。

福岡教区教務所の予定表

月	日	曜	時	内容
1月	9	火	9:00	通常業務開始
	10	水	10:00	実践運動 寺院機能推進部会
	12	金	18:00	仏教青年連盟 新春のつどい
	17	水	14:00	ビハーラ・ライン例会 / 14:00 実践運動 同朋運動部会
	20	土	15:00	少年連盟 子どもの集い
	21	日	13:30	スカウトクラブ しんらん様のつどい (上下組 西宗寺)
	22	月		実践運動 星塚敬愛園現地学習会 (鹿児島～23日迄)
	23	火	13:30	西嘉穂組 実践運動推進協議会 (明圓寺)
	26	金	10:30	福岡教堂・教区報恩講法要 (～28日迄)
	29	月	13:00	坊守式受式事前研修会
	30	火	13:00	夜須組 実践運動推進協議会 (ピーポート甘木)
31	水	14:00	第3回社会福祉推進協議会 役員会 ビハーラ福岡 例会	
2月	2	金	18:30	怡土組 実践運動推進協議会 (明勝寺)
	4	日	14:00	子ども・若者ご縁づくり 公開シンポジウム 恋愛×仏教～イマドキの関係性(つながり)～
	5	月	11:00	教堂委員会・財産管理委員会・常備会合同会議
			13:30	教区会全員協議会
				少年連盟・子ども若者ご縁づくり共催 第5連区指導者研修会 (佐賀～6日迄)
	6	火	13:00	門徒推進員連絡協議会 役員会
			13:30	夜須組 僧侶研修会 (西福寺) / 13:30 宗像組 実践運動推進協議会 (浄蓮寺)
			13:30	鞍手組 僧侶研修会 (円覚寺) / 未定 粕屋組 僧侶研修会 (明覚寺)
				本派矯正教化連盟福岡矯正管区福岡支部研修会 (北豊～7日)
	8	木	13:30	実践運動研修会 / 14:00 ビハーラ・ライン 例会
	9	金	10:00	仏教婦人会 若婦人部研修会 / 13:30 西嘉穂組 僧侶研修会 (西蓮寺)
			14:00	福岡教教師会 / 14:00 第3回社会福祉推進協議会 評議員会
	10	土		安穏交流LIVE (子ども・若者ご縁づくり協賛)
			13:30	遠賀組 実践運動推進協議会 (照円寺)
	13	火	14:00	長期振興計画委員会 / 14:00 第5連区スカウト指導者会 (熊本)
	14	水	11:00	清掃奉仕 (八女組・鞍手組)
			13:30	親鸞聖人讃仰講座 (～15日迄)
	15	木	15:00	災害犠牲者追悼法要実行委員会
			仏教青年連盟 青少年教化指導員研修会 (本山～16日迄)	
17	土	12:00	門徒推進員連絡協議会 研修会 / 15:00 福岡組 僧侶研修会 (未定)	
			第16回ビハーラ活動全国集会30周年記念大会 (本山～18日迄)	
19	月	14:00	実践運動 門信徒教化部会	
20	火	12:00	寺族婦人会連盟 実践運動研修会 / 第5連区青年布教使研修会 (熊本～21日迄)	
21	水	14:00	ビハーラ福岡 例会	
22	木	10:00	染香会 / 14:00 東筑組 僧侶研修会 (善定寺)	
23	金	13:00	那珂組 実践運動推進協議会 (本願寺福岡教堂)	
		15:00	保育連盟 園長研修会	
24	土	14:00	下川東組 実践運動推進協議会 (明行寺)	
			第5連区仏教青年連盟 リーダー研修会 (鹿児島～25日迄)	
25	日	13:30	連研履修者教区研修会	
26	月	16:00	保護司会 研修会	
28	水	14:00	実践運動 常任委員会	
3月	2	金	10:00	仏教婦人会連盟 支部長会
	3	土	13:30	鞍手組 実践運動推進協議会 (円徳寺)
			14:00	第4回仏教壮年会連盟 理事会
	5	月	13:30	各災害犠牲者追悼法要
	6	火	10:30	門徒代表者協議会
			10:30	仏教婦人会若婦人部 代表者会
	7	水	10:30	教堂委員会 / 13:00 常備会
			14:00	ビハーラ福岡 例会
	8	木	14:00	ビハーラ・ライン 例会 / 実践運動 第5連区合同会議 (北豊～9日迄)
	12	月	15:00	組長会
	14	水	11:00	清掃奉仕 (早良組・下川東組) / 13:30 親鸞聖人讃仰講座 (～15日迄)
26	月	14:00	実践運動 常任委員会	
27	火	14:00	全国教区会議長会 合同会議 (本山)	
29	木	14:00	定期教区会	

編集後記

2017年の漢字は「北」でした。「北朝鮮」「北海道日本ハム」「キタサンブラック」等、世相を表したのでしょうか。あまりピンとこなかったのは私だけでしょうか？近い未来「西方浄土」「西本願寺」等、「西」の番を心待ちにしております。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 菊池 慈峰

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2

電話:092(771)9081